

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Maternal autistic traits and adverse birth outcomes: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

母親の自閉傾向と出生転帰:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名:大阪ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名:JAMA Network Open

年: 2024 DOI: 10.1001/jamanetworkopen.2023.52809

筆頭著者名:細澤 麻里子

所属 UC 名:大阪ユニットセンター

目的:

自閉傾向の高い女性は、妊娠中に様々な健康に関する問題を経験しやすく、出生転帰に影響を及ぼす可能性があります。そこで、一般集団における母体の自閉傾向と出生転帰との関連を検討しました。

方法:

本調査に参加中の単胎児の母親を対象に、自閉傾向は妊娠第 2・3 期に自己申告による自閉症スペクトラム指数日本語版の回答で 7 点以上を臨床閾内と定義しました。出生転帰は、早産(37 週未満)および SGA(在胎不当過少)とし、医療記録より収集し、一般化線形モデルを用いて相対リスクを求めました。妊娠週数群別(極早産:32 週未満、中・後期早産:32~36 週)の分析も行いました。

結果:

対象 87,687 名のうち 2,350 名(2.7%)が臨床閾内の得点でしたが、自閉スペクトラム症の診断を受けたのは 18 名(0.02%)でした。母親の自閉傾向が 1 標準偏差増えるごとに早産(1.06, 95%CI1.03-1.09)、中・後期早産(1.05, 95%CI1.01-1.08)、極早産(1.16, 95%CI 1.06-1.26)、SGA(1.04, 95%CI1.01-1.06)の相対リスクが上昇しました。臨床閾内の女性は早産のリスクが 16%、中・後期早産のリスクが 12%、極早産のリスクが 49%、SGA のリスクが 11% 高くなりました。

考察(研究の限界を含める):

これまで自閉スペクトラム症と医師により診断された女性において早産のリスクが高いことは報告されていましたが、本研究では、診断の有無によらず一般集団において自閉傾向が高い女性は、早産や SGA、特に極早産のリスクが高いことが示されました。この背景には、例えば、妊娠中の心理的ストレスの影響、食事など生活習慣の影響、また、困り事があっても支援につながりにくいことなどが考えられます。この研究の主な限界として、自閉傾向は自己申告に基づくことから、回答バイアスの可能性や自閉スペクトラム症とは異なる理由による社会性の困難さを反映している可能性があげられます。

結論:

医師からの自閉スペクトラム症の診断の有無にかかわらず、自閉傾向が高い女性(特に臨床閾内の得点を示す女性)に対し、妊娠中から適切な支援を提供していくことが重要です。